

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	高精細CTを用いた原発性肺腺癌のCT解析
② 実施予定期間	実施許可日から 2031 年 3 月 31 日
③ 対象患者	以下の対象期間中に山口大学医学部附属病院において超高精細 CT を撮像され、手術で 3cm 以下の原発性肺腺癌と診断された患者さん
④ 対象期間	2025 年 3 月 1 日から 2026 年 7 月 31 日
⑤ 研究機関の名称	山口大学医学部附属病院
⑥ 対象診療科	呼吸器感染症内科、呼吸器外科
⑦ 研究責任者	氏名 田辺 昌寛 所属 放射線科
⑧ 使用する情報等	① 日常診療の記録から収集する項目（既存情報）： 識別コード、年齢（CT 検査時）、性別、身長、体重、現病歴、既往歴、喫煙歴、家族歴、病理結果、遺伝子変異（PD-L1 発現率、EGFR 変異の有無）、CT レポート結果、CT 画像、CT 撮像条件のパラメータ ② 本研究で検討する項目（測定や解析情報）： 腫瘍の存在部位、辺縁性状（境界明瞭/不明瞭、平滑/不整）、CT 所見の有無（すりガラス成分、spiculation、notch、気管支壁肥厚、気管支閉塞、air bronchogram あるいは気管支拡張、胸膜嵌入あるいは胸膜との接触、肺気腫、間質性肺炎・蜂窩肺、石灰化、空洞）、腫瘍径、充実成分径、定量解析（腫瘍の体積、CT 値、成分の割合）
⑨ 研究の概要	肺癌の診断にはCT、特に高分解能CT（スライス厚1mm前後撮像したCT）による画像評価が必須です。高分解能CTでは腫瘍のサイズ、性状、進行度を評価でき、質的診断や治療方針の決定に有用です。原発性肺癌のうち腺癌は、特に高分解能CTが病理所見をよく反映するとされており、非浸潤性腺癌では主にすりガラス成分、浸潤性腺癌では充実成分を呈することが多いです。すなわち、充実成分を有する腫瘍は、そうでない腫瘍と比較してより進行している可能性が高くなります。近年、がんの進行度評価に用いられるTNM分類が改訂され、T因子の決定に腫瘍の最大径に加えて、新たに充実成分径の評価が必須となりました。 一方、CT技術も進歩し、キヤノンメディカルシステムズ社により超

	高精細CTが開発されました。超高精細CTは、検出器、X線管、再構成技術を高精細化することで、従来CTの約2倍の空間分解能を実現したシステムであり、微細構造の描出能向上が期待されています。山口大学医学部附属病院では、2025年3月以降、肺癌術前評価において超高精細CTが撮像されていますが、超高精細CTを用いて原発性肺腺癌の充実成分に着目し、定量解析を行った報告は少ないです。 本研究の目的は、超高精細CTを用いて原発性肺腺癌のすりガラス成分および充実成分を定量評価し、病理所見や遺伝子変異（PD-L1発現率、EGFR変異の有無）との相関を、従来の高分解能CTと比較して検討することです。超高精細CTにより得られる微細構造を反映した画像所見は、腫瘍の悪性度推定や予後予測に有用な情報を提供する可能性があります。 本研究は、研究協力者として研究倫理研修を受講した山口大学医学部医学科学生が研究責任者のもとで定量解析および記録、データ解析、統計処理を分担します。			
⑩ 実施許可	研究実施許可日	2026 年 8 月 27 日		
⑪ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。			
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。			
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。			
⑭ 知的財産権	山口大学に帰属します。			
⑮ 研究の資金源	放射線医学講座の奨学寄付金にて行います。			
⑯ 利益相反	ありません。			
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：田辺 昌寛			
	電話	0836-22-2285	FAX	0836-22-2285